

# 正しく豊かな日本語は、看護のコミュニケーションの基本

## — 浜田准看護学校で日本語検定を活用 —



浜田准看護学校 教務主任 湊 睦恵 先生

浜田准看護学校は、島根県西部の島根県浜田市松原町にあり、一般社団法人浜田市医師会が運営しています。大正13年に那賀郡衛生会附属産婆看護婦養成所として開校、現在まで地域の看護人材育成を目指して、これまでに1,722人の准看護師を養成し、医療現場へと送り出しています。1学年定員30名ですので、教務の先生方と学生の距離も近く、一人ひとりに肌理細やかな指導をしています。また、医師会員をはじめ、様々な分野から魅力ある講師陣が熱心な授業を展開しており、資格試験は毎年全員合格しております。看護は、健康を守ることはもちろん、看護を実施する者自身を成長させてくれる立派な職業です。本校で准看護師の資格を得ようとする学生には、豊かな人間性を身につけ、多様な価値観を認め、人間尊重の心を養い、また専門職として必要な基礎的知識および技術を習得し、社会に貢献し得る優秀な人材になっていただくことを願っております。

看護の実践において、コミュニケーションは欠かせない技術です。現代社会のコミュニケーションは、SNSなどの影響を強く受けているのではないのでしょうか。便利ではありますが、語彙力は低下していると感じています。当校の学生でも、本来の言葉や意味を知らないまま、省略された言葉だけを覚えてしまい、話し言葉でレポート

を作成してしまったり、複雑な感情や背景を表現できないために、誤解が生じているということがあるのです。また、いつの時代にも言えることではありますが、若者は同世代の中だけで通じる若者独自の言葉を作り、同世代の中だけの関係で満足する、という傾向にあると思われます。そのため世代が変わると、同じ日本人でありながら、まるで異文化コミュニケーションの様相を呈してきます。

しかし、看護は、人と人との関係性から成り立っています。あらゆる年代の方々とコミュニケーションが必要です。ジェネレーションギャップを埋め、人間関係を円滑に進めるためにも、言葉は大切です。言葉一つで、相手との関係性を壊してしまうこともあるからです。また、看護という専門職者になるためには、自分で考え、考えたことを文章で表現し、伝えることも要求されます。語彙が豊富であることは、物事をより深く考え、細かく表現することに繋がります。それは、より良い治療や看護を受けて頂くためには必要不可欠なことなのです。このようなことから、正しく豊かな日本語は、看護のコミュニケーションの基本であり、患者と看護師の関係を築く上で重要な役割を担っていると言えます。

以上の事から本校では、カリキュラムの中に日本語検定を取り入れています。准看護学校は、中学校卒業者に受験資格があるので、全員4級以上を受検することになっています。学生各自が現在の日本語力の程度を知り、問題点を把握することに努めています。また、検定結果を基礎科目の国語の担当講師に伝え、授業計画立案の参考にしてもらっています。

現在は、1年次の春に1回受検計画をしておりますが、今後は、日本語力の向上を図り、2年次にも受検することも考えています。学生自身は、学習の成果を実感することができ、また、正しい日本語が使える准看護師として活躍できるのではないのでしょうか。

### プロフィール

湊 睦恵 先生 (みなと・むつえ)

昭和37年4月生まれ

昭和59年 大阪通信病院附属高等看護学院卒業 看護婦免許取得

平成4年 看護教員養成講習会課程修了

大阪通信病院 (現 NTT 西日本大阪病院) を経て、現職に至る。

現在、大手前大学現代社会学部現代社会学科通信教育課程に在学中